宣伝が負けている

反戦署名に参加して

（座談会）

一〇月二四日、三池労組全支部の各地域ごとの校区連協の結成後担当校区ごとに一斉に行動を起こし一一月一五日現在の集約は別表の通りになりました。（現在集約中）

日韓、ベトナム署名　カンパ集約状況

担当支部	担当校区	目標	署名数	カンパ金
宮浦支部	天道校区	1,920	1,479	9,514
〃	三川校区	4,940	2,745	10,432
〃	玉川校区	1,550	1,584	9,483
三川支部	駛馬南校区	3,760	2,491	16,311
四山支部	三里校区	4,260	2,352	10,535
本所支部	大正校区	4,930	2,682	15,198
港務支部	諏訪・川尻校区	5,530	3,573	33,346
計		26,890	16,906	104,819

統一行動で宮浦支部担当の玉川校区をまわった三名の方々に、編集部より話をうかがいました。

＝出席者＝
宮浦　月見ガ丘社宅　平田　憲二さん
宮浦　宮前社宅　藤枝　忠博さん
宮浦　朝日ガ丘社宅　前田　利幸さん
司会　編集部

やらんといかん

【司会】本日はおいそがしいところをお集まりいただき、ありがとうございました。きょうは玉川校区をまわって署名活動された方にきていただいたわけですが、まず署名活動するこちら側の体制として、積極的にやらなければならないという決意があったかどうか、うかがいたいのです。

【平田】私は月見ガ丘ですが、統一行動に参加したのは三五名です。これは公私傷病者を除いたら全員参加なのです。やっぱり〝やらんといかん〟という気持のあらわれだと思います。なかには「指導部からいわれたから来た」という人もいたが、みんなやろうという意志統一のなかでもりあがりました。各部落ごとに人員割りをし三人一組で組長がリーダーになって、各戸全世帯をまわりました。

【藤枝】宮前社宅でも集った者はやろうという気がまえはあったのですが、本当にベトナム戦争や日韓問題が私たちの生活と結びついているのだ、絶対やらにゃいかんとわかって活動した人と、あまりわからないで動いた人は半々くらいではないかと思います。

【前田】朝日ガ丘の場合もはじめに割当をきめてまわったのですが、いままで署名活動をやったこともない人でも、こんどは全員やってみて、はじめて〝やっぱりやらねばいかん〟という自信がわいたというのが実情です。

政治への無関心層をなくそう

【司会】では、実際にまわってみて相手側の反応はどうだったでしょうか。

【平田】戦争に反対ということは、どこでも一致していました。ただ、ほとんどが農家だったのでどちらかというと勤めに出ている人の方がわかりが早かったようです。でも私たちは、署名をとることだけが目的ではないので、すぐ署名してくれる人にも一応の説明はやりました。

【藤枝】「私は戦争には賛成です」といった人もあって、びっくりしました。その隣に行ってそういったら、そこの人は「いまごろ戦争賛成という者がいるとですか」そんな者は〝カマでむこうズネをはらわんとわからんとやろ〟と笑い話になりました。しかし全般的に戦争反対ですが、それが直接自分の生活とは結びついてはいませんね。

【前田】私のまわったところは戦争には反対だ。ベトナム戦争はいかん。しかし日韓条約は隣の国と仲よくすることなのに、なぜいけないのですか。日韓条約結んで戦争になるというのは判らない。という人がほとんどでした。

【平田】たしかにそうですね。農家でみかん山でも持っているなら、日韓問題よりみかんの方が大切なのですから。政治のことは、誰かさんがやってくれるだろう、という無関心層が多いですね。これは非常に重大なことです。

まず行動をおこそう

【司会】では最後に、行動をおこして、一番の問題点は何だったか。またそれをどうしたらいいかを出してほしいと思います。

【平田】統一行動を終って集約会議をもったのですが、一番の成果としてあげたのは、署名数が目標数より上回ってとれたことより全員が行動し、やればできるという自信をえたことでした。

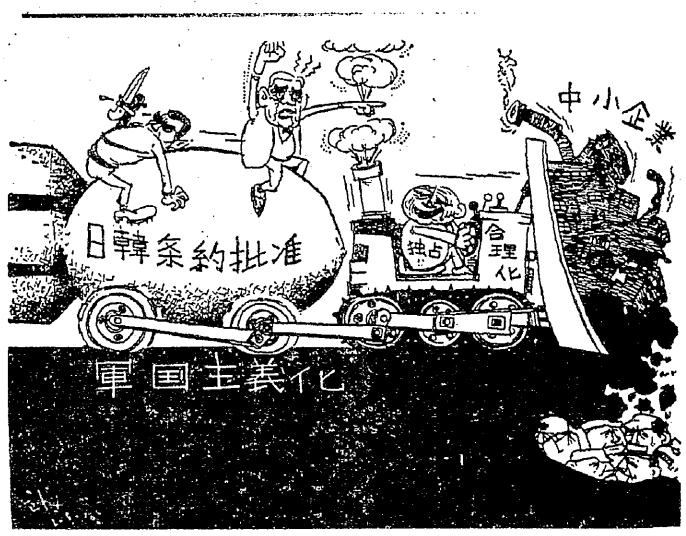
【藤枝】まわってみて、政治に対する無知がどんなに多いか判りました。私たちのPRが負けています。私たちは訴えるにはまず自分が本当に反対だと思わないなら説得できません。行動してみて本当に確信がもてました。

【前田】私たちは農家ともふだんのつながりが必要です。援農にも全員でとり組んだらどうかと思いました。それとともに大地評の組織をもっと強くする必要を感じました。転場の斗いのみでなく、同じ立場にある市民としての地域での組織を強めなければなりませんね。

【平田】月見ガ丘では今度の経験から、農家とも交流をもとうということになり、まず農家の人からホウレン草の植え方をならうことにしました。

いくら反対していても、ジッとしていては何もなりません。まず行動を起すことが第一です。

【司会】本日はありがとうございました。



「一心同体」

朝鮮籍要請運動に支援を

日本政府は、在日朝鮮人の国籍変更問題について「韓国」と記入されているのは国籍とみなし、朝鮮となっているのは国籍ではなく符号にすぎないので「韓国」を朝鮮に変更することは認めないという「統一見解」なるものを発表した。このことは「在日朝鮮人の法的地位に関する協定」の「永住権」をエサにして在日朝鮮人に「韓国」籍をおしつけ、民族的差別と政治的迫害を加え、在日朝鮮人を朴カイライ政権にあえて結びつけ朝鮮民主主義人民共和国を敵視し在日朝鮮人の国籍の権利をじゅうりんする不当な政治的意図のあらわれである。

朝日両国人民の真の友好と親善のため、あくまで侵略的「韓国条約」批准に反対し、私たちの正当な朝鮮籍要請運動に左記のような支援をお願いします。

記

一、各種会合で私たちの運動を支援する決議をしてください。

一、法務大臣あてに「朝鮮籍変更をすぐ認めよ！」という要請電報などを送ってください。

▼抗議先＝東京都千代田区霞ケ関
一ノ一ノ一
法務大臣殿
大牟田市大正町五丁目
在日朝鮮人総連合会
福岡県大牟田支部

切り崩し説得をうけて

本所　本恵久保さん

【18話】

若いころ、昭和のはじめごろでしたが、船乗りでした。主に小笠原諸島で漁業をやり、その後近海航路に乗りました。

その後、昭和一一年に港務所の船積手になったのです。二五才でした。船積手は昔はゴンゾウと呼ばれ、そのなかでも重労働が本口といわれ、雑口の方は軽作業でした。私は本口で、身体が強くなければもたないような転場でした。徹夜も多く船が入ったとき、急ぐ仕事のときは呼び出しなどもありました。途中で戦前一年半ぐらい、操車手をやったこともあります。

名が第一組合員です。

転制はまた、だれにでも切り崩し説得にまわっているようですが先日、私も転員から「第二組合へ行ったがいい。もし行かないなら転場を替えるかもしれない」と、おどしを含んだ説得を受けました。私は「家族ぐるみ第二組合へ行く気はないし、配転もどこへやられてもいい」といったら、その後何ともいってきません。

私はむずかしい理くつは判りませんが、もういまさら一しょに助け合ってきた仲間を裏切る気は全然ありません。

（本所人事＝五三才）

三池で学んだ

反合理化斗争

（15）

社青同千葉　新井絢子

私は、半年ほど前、数人のサークル員と共に寒風の吹く大牟田市をおとずれ、三池労組であたたかいお世話になり、そこで斗っているほんとうの労働者の姿を見ました。

三池といえば、多くの仲間にとっては「安保斗争」と同様、何か非常に強烈な感動をよびおこさずにはいられない、たくましく斗う労働者の連帯の中心的存在です。三池斗争については、これまでいくつかの資本に対するねばり強い斗いの報告が、全国各地に向けて無数に行なわれてきました。しかし、それらを不断におしすすめた仲間の多くは、英雄的な気取りなどみじんもないごくありふれた労働者や、彼らの斗いを日常的に支えている家庭の主婦であったことは、組織された労働者のもつ力がいかに大きいかを物語っていると思います。

その結果、斗争の勝負の即断は別にしてもとにかく言えることは「ときには労働者が勝つこともあるが、ほんの一時的なものであるかれらの斗いのほんとうの成果は直接の成功ではなく、ますます拡がる労働者の団結である」と指摘したマルクスの正しさが、ここでも証明されたということです。

今日の合理化についての考え方は、単に転場だけではなく、国民全体の生活的、日常的な問題になっています。転場の合理化＝機械化、生産性向上、首切り、人員整理、低賃金という図式的な理解だけではなく、それが、国民生活に体系的、政策的に浸透しつつあるところに実質的な問題があると思います。

私たちのまわりに起こるごくささいな出来事でさえも、このような合理化政策とは無関係ではありません。しかし、そのやり方は、ますます巧妙で複雑になり、現象面だけを一見しただけで判断するとうっかりごまかされてしまいます。

転場においては、労働者の人間性を全く無視した機械化、労働条件の実質的改悪、保安無視の生産などが次々とおしつけられ、社会的には、物価値上げ、みせかけだけの免税や福祉政策、実質的には生活条件の低下、などがおしすすめられて来ています。

資本主義社会のどれをみても、形式的には労働者に有利にみえるのはみせかけだけで、実質的には反労働者的なことがらはいろいろあります。形式に正当性を与え、内容はなしくずしに改悪されている立法処置、特に、平和憲法の改悪はゆるせません。

こうして考えると、単に転場だけの問題ではなく、もっと大きな規模をもって、政策的な意図の下にすすめられている合理化さ、ようやく賃上げ斗争で獲得した賃金さえも、物価値上げによって知らず知らずのうちにうばわれてしまうというからくりにすぎない、ということがわかります。

それ故、資本主義が、国家という正当性を前面に示しながら行なっている反革命、反階級的な搾取の手段が、今日の合理化であると私は思います。

この資本のおしすすめる反革命＝合理化に対する斗いは、労働者の団結を強めた資本に対決する階級斗争です。

三池で学んだことは、三井資本に対する三池労働者の斗いが、企業をのりこえてひろがりとねばりづよさを持ち、全資本対全労働者の階級的な斗いにつながっているのだということでした。そして、それを基礎づけ、とりくみが、家庭を、地域をも含めたはばひろい根強さをもちつづけていました。

労組本部であった人たち、夜おそくまで語りあった主婦会のおばさんたち、仕事をおえて活動にとりかかる若い労働者のいずれもがみんな人間的に信頼しあって斗っているうつくしさを見せてくれました。人間性をうばい去る合理化これには、近代化とか労働者のためになる合理化などというものはありません。

むしろ、合理化の美名にかくれて進行しつつある本質をみぬき、それをひとつひとつ明らかにして具体的に斗うことが、私たちの活動には大切だと思います。

千葉県柏市
社青同千葉県本部